

# たんがー新聞

12.3.No177  
発行所 福島県  
0883-88-5292

都会では、職場を離れれば地域で何をしたいのかも知らないのが多くの関係。悩まされることもありません。

三月です。あの日からもう十ヶ月も一年。被災者の皆さんにとっては、大変な日々的一年であった事でしょう。そして、まだ先は長く厳しいとおもいます。軽々に「頑張ろう」「人は言えませんが、皆さんのことを心で持つて、遠く四国や山の中からご支援を続けたい」とおもいます。

昨年の漢字「絆」があらゆる場面に使われていました。言われていました。そして「絆」の大切さも誰でも認められているでしょう。絆を殊更言わなければいけない社会というのにも気がなります。

絆というか、横のつながりの深さは、田舎といわれる地へ程、深く広いのびはよいでしょうか。いや、残っていると言えらるのでしょうか。

祖谷でいえば、Oの息子さんとか、Oの親、祖父母が誰ぞごんは仕事をしてくるとか、知らずんこといいようへ事も知っています。だから、ウワサや悪口が少なくありません。



りません。ごも、逆に、隣りの人の「顔」が見えないのだから、ニュースにもあったように、二一世紀の日本で、餓死していったという様な状況があるのでしょうか。

復興を争商く叫んでも、ガシキとほとんどの山積みになつてしまふ。

自分達で対応出来ない危険度Nの1の原産を早くも稼働させようとしてくる。

地方や弱い立場の人々にお金がおしつけて、責任はとうはい人達。歴代の首相をほひめ、原発行政を推進した国会議員、学者の皆さんは、福島へ行き、命をかけて



古里に帰られる様にして下さいよ。また、支援についても、顔の見える支援の手法を教えてください。様々な所がカバを呼びかけますが、被災者の皆さんに届いていないのが不安になります。エコという言葉、売りに売っていた商品はほとんどが使えない商品。何年も大切に使うという事はありえなくなっています。何十年か前まで、腕時計は、それこそ一生使用するつもりで買った品物。それが、今では使えない商品。代表的なのは私たちが持っているのが「タイプライター」です。必要でもないアイテムをつけて、高く売り、バテリを交換するのに苦労し、買いかえれば、当然の様に引き取る。としか、絆を強めるのは、日常生活の積み重ね、お金のやりとりでは、絆は深くはないと思ふ事